



なる
ほど!

北海道企業局 のシゴト

北海道職員の中でも、電気や工業用水を手がける
企業局のシゴトをご存知ですか？

この小さな冊子では鷹泊発電管理事務所働く
職員のインタビューから当局の役割を紐解きます。



電気や工業用水を 企業に販売し、北海道に貢献!

北海道企業局は、一般にイメージされる「道職員」とは少し違います。北海道が経営する地方公営企業(上下水道や病院、電気など地方自治体が経営する事業)として、札幌市、深川市、夕張市、苫小牧市、登別市の5拠点を中心に電気と工業用水を生み出し、電気事業者やものづくり企業に販売することでビジネスをサポート。北海道の経済とダイレクトに関わり、道民の暮らしも陰ながら支えているのです。

「北海道企業局」
とは?



ダムを管理するための専用機械を操作。

interview

北海道企業局のシゴトって? /

北海道の経済と 暮らしをサポートする 縁の下の力持ちです。

鷹泊発電管理事務所
土木係 技師
石若 理さん



工業用水は製造業からの ニーズが意外と高いんです。

大学ではダムや河川に係わる土木工学を専攻しました。その知識を生かそうと北海道企業局に入職したんです。まずは札幌市の本局で約2カ月当局の概要や簡単な設計書の作成などを教わり、工業用水事業を行う登別市の室蘭地区工業用水道管理事務所に配属されました。製鉄所や工場では鉄を冷やすにも水道水を使うと費用がかさみますが、僕らの手がける工業用水は安価なため、ものづくり企業から意外とニーズが高いんです。

室蘭地区工業用水道管理事務所では地面に埋設した管を通して工業用水を送っています。僕は、その管を流れる水量の計算や契約企業の使用水量の確認、施設補修の設計書を作成するなど、さまざまな仕事に携わりました。

先輩方は分からないことを尋ねると、快く答えてくれる人ばかりです。困っていたら声をかけてもらうなど、新人に目配りしながらじっくり育ててくれる雰囲気を感じました。

台風や大雨の際には、 事務所に詰めることもあります。

2年ほど前に深川市の鷹泊発電管理事務所へ異動しました。ここでは鷹泊ダムの水位を活用して発電し、電力会社に販売しています。僕の仕事はダムや施設の管理、補修がメイン。例えば、ダムの管理では測量をはじめとする様々な定期観測を行い、過去のデータと比較して変化があれば原因を調べています。

当局の運営しているダムは、一般企業に工業用水を送ったり、発電のために水を貯めたりする「利水ダム」。とはいえ、台風や大雨の際には上流の雨量計や流量からダムに流れ込む水の量



職場は風通しが良く、和やかな雰囲気。

を予測し、実際の流入量から操作規程に沿って放流などを行っています。普段は残業も少なく、夜間や土日には嘱託の職員が保守管理にあたりますが、台風や大雨による出水が見込まれる時は、夜通し事務所に詰めることもあるんです。

何事もなく業務を進めることが、 北海道に貢献することなんです。

北海道企業局では、道民とダイレクトに関わる機会はあまり多くありません。一方、工業用水に万一のトラブルが発生してしまうと、一般企業のビジネスを止めてしまう恐れもあります。先の北海道胆振東部地震の際は、鷹泊発電管理事務所でもできる限り電力を供給できるように努めました。僕らは「何事もなく」業務を進めることで、北海道経済や道民の皆さんの暮らしを縁の下で支える存在でもあるんです。

こちらも
チェック!

石若さんのインタビューのロングバージョンは、Webサイト「北海道未来のしごとの参考書」で読むことができます。ぜひ、チェックしてください!



未来の
北海道
しごとの参考書

